

名教自然碑の裏面に刻した碑文(徳富蘇峰) 『原文』と『解説文』について

この碑文の内容は「名教自然碑の由来と教育私見の断片」の 2 頁にも掲載されているが、その冒頭の書出しに碑の製作時のエピソードが碑文紹介の序文ともなっているため、ここで再掲した。

名教自然碑の裏面碑文は、煙洲 鈴木達治先生の教育理念を称えて 昭和 12 年に徳富蘇峰 翁が作られたものである。それを読み内容を理解するには多少の漢語と文語体の知識が必要となる。理工系の学生の皆さんに名教自然碑の碑文の理解を助けるため、ここでは碑文の原文をやや判り易く読下した『解説文』を載せ、さらに碑文中の難解な語と語彙の説明と名教自然碑に関連する事項にも簡単に触れてある。

できれば、以下の『解説文』から碑文『原文』に戻られ、読了される際の一助となれば幸いである。

2016 年 8 月吉日

山口 惇



名教自然碑の由来と教育私見の断片 の冒頭書出し部

煙洲 鈴木達治

昭和十年私が横浜高等工業学校長を辞するや、校友諸氏が記念の為、私の銅像を校庭に立てんとので案があった。私は其厚意はありがたいが、私は如何に考えても、銅像になる身分ではないと思って固辞した。しかし折角の厚意を受けるとすると、甚だ勝手の申分であるが、銅像でなくて、記念碑にしてもらいたいと返答した。両者何れにするか、容易に決しなかつたが、終に私の強いての乞いを、容れてくれ、記念碑にすることになった。碑の石材は、茨城県太田町の附近の大理石の山にあるので、阿部滋弘、中村順平の両教授と同道して見に行った。掘り出したままの石は、三十幾トンもあって、山でも珍しい巨大のものであるので、運搬は容易でない。そこで山元で大いに削り減らし、更に学校に運び込み、二十幾トンに仕上げたのであった。

表面に私の悪筆で名教自然と題し、其直下に煙洲鈴木達治と署名した。使用した落款は四寸六分角の桜木に、彫刻せられた美術的のもので、蘇峰徳富先生が、態々私のために、製作して贈られたものである。裏面に刻した碑文は、同先生の撰で、三溪原富太郎先生の筆である。其撰文は

名教自然碑 裏面に刻した碑文 『原文』

丈夫自有衝天氣、不向如来行處行、煙洲鈴木君達治ノ如キハ、ソノ人興、君初メ京都ノ同志社ニ学ビ更ニ東京帝國大学ニ入り、理科ヲ修ム。大正九年一月十九日政府勅令ヲ以テ横浜高等工業学校ヲ設立スルヤ君即日選バレテ其校長ニ任ゼラル。創立経営ノ業、専ラ君ノ努力ニ俟ツモノ多シ。然ルニ大正十二年九月一日大震火災ノ起ルヤ、横浜最モ其厄ニ罹リ、全校ヲ挙ゲテ殆ンド焦土ニ帰セシメタリ。

此時ニ当リ、青天霹靂、命令一下、愛知県名古屋市ニ移転セシム。君慨然トシテ起チ勇奮自カラ禁ゼズ或ハ市ノ有力者ニ懇へ、或ハ当局者ニ抗議シ、奔走周旋寧処スルニ遑アラズ。逐ニ現場ニ於テ漸ク該校復興ノ目的ヲ達スルコトヲ得タリ。

君ハ夙ニ皇室中心主義ヲ奉ジ、躬行実践一ニ自発ノ力ニ頼ルヲ旨トシ、特ニ学生ヲシテ各自ノ人格ノ尊重スベキヲ自覚セシメ、学生ヲシテ天賦ノ才能ニ応ジテ、其所長ヲ發揮セシムルコトヲ教育ノ主眼トシ、而シテ自ラ三無主義ヲ標榜ス。曰ク無試験、曰ク無採点、曰ク無賞罰、君ヲ知ラザル者、皆ナ其言ヲ異トセザルハナシ。

然モ其ノ効果ハ頗ル著明ナルモノアリ。コレ職トシテ君ノ誠意ノ学生ニ感孚スルトコロタラズンバ非ズ。而シテ横浜高等工業学校ガ特殊ノ学風ヲ陶冶シ、我教育界ニ於テ一種ノ異彩ヲ発シ、超然独歩ノ觀ヲ呈スルモノ寔ニ偶然ニアラザルナリ。

此ニ於テ君ハ創立満十五年ヲ期シ、自ラ選抜シタル後任者ヲ推薦シ、悠然トシテ去レリ。君ノ如キハ進退出處實ニ其道ヲ得タルモノト謂フベシ。

比口故旧門人碑ヲ校庭ニ建テ、君ノ徳ヲ頌セント欲シ、文ヲ予ニ徵ス。予君ト相得ル浅キニ非ラズ、欣然ソノ知ル所ヲ鏘シテ以テ後ノ君子ニ諗グ、然モコレ未ダ君ノ全面ヲ馨スニ足ラザルナリ。

昭和十二年十一月一日

蘇 峰 徳 富 猪 一 郎 撰
原 三 溪 書

名教自然碑 裏面に刻した碑文 読下し『解説文』

丈夫(ますらお)は自ら天を衝く気迫があり、如来行く処に向かつて行かず。煙洲 鈴木達治君はそのような人物である。君初め京都の同志社に学び、更に東京帝国大学に入り、理科を修めた。大正九年一月十九日政府勅令を以って横浜高等工業学校を設立すると、君即日選ばれて其の校長に任ぜられた。創立経営の業務、もっぱら君の努力に俟(ま)つものが多かった。然るに大正十二年九月一日大震火災が起きると、横浜は最も其の災害に罹り、全校を挙げて殆んど焦土となってしまった。

この時に当たり、まさに晴天の霹靂、命令一下、愛知県名古屋市の本校の移転を命じた。君志を奮い立たせて行動を開始し、有りつたけの勇気を出して、或いは市の有力者に訴え、或いは当局者に抗議し、関係方面に働きかけて歩き回り落ち着いて居る暇(いとま)もない。ついによろやく現在地に本校を復興する目的を達成できた。

君は早くから皇室中心主義を奉じ、自分自身で実践することを主として、特に学生に対し各自の人格を尊重することを自覚させ、学生に生まれつき備わっている性質・才能に応じて、その長所を發揮させることを教育の主眼とし、そうして自ら三無主義を標榜した。曰く無試験、曰く無採点、曰く無賞罰。君を知らない者は、皆その言葉をおかしいとしないものはいない。

しかも、その効果はよく世間に知られている。これは職務として、君の誠意が学生と誠実に感じあうことが足りないわけではないからだ。こうして横浜高等工業学校が独特な学風を鍛え練り上げ、我が国教育界において一種の特色を發揮し、他よりひとときわ優れているのもまことに偶然ではない。

ここにおいて、君は創立満十五年を期して、自ら選抜した後継者を推薦し、悠然と去った。君は進退出処にその道を得た者と言うべきである。

此の頃、古くからの門人が碑を校庭に建て、君の徳を褒め称えることを希望し、碑文を予に求めた。予、君と相知ること浅くない、飲んで知るところを後継の君子に告げたいが、この内容では未だ君の全てを伝えるにはこと足りない。

昭和十二年十一月一日

蘇 峰 徳 富 猪 一 郎 撰
原 三 溪 書

碑文 1 行目 不向如来行処行(如来行ク処ニ向カッテ行カズ)について の富山 保(横浜国立大学初代学長)の解説

「煙洲先生を憶ふ」

昭和 11 年頃の除幕式における蘇峰翁の式辞中、「鈴木先生は他人が右に行くと言うときに左に行く人ではないが、自ら理想を樹て、それを實現するために右に行く人である」と言われた。先生の一面を表す句として今尚記憶するところである。

『先生の思い出』に収録 昭和 37 年 8 月 29 日 発行
(編集者 村松 四郎) 発行者 小汀 浩一郎

名教自然碑は横浜高等工業学校 中村順平教授の設計になり、登録有形文化財に認定されている。
(14-0039号 文化庁 平成12年(2000年)登録)

なお 旧弘明寺校舎は、現在横浜国大教育人間科学部附属中学校となっているが、これも登録有形文化財に認定されている。(14-0046号 文化庁 平成12年(2000年)登録)

碑文中の語・語彙に関する説明

- ① 丈夫自衝天氣 立派な男子(ますらお)、自ら天を衝く気迫あり(勢いの盛んなことのたとえ)
- ② ソノ人興、 その人なるか。そのような人物だ、
- ③ 君慨然トシテ起チ勇奮自カラ禁ゼズ
君、志を奮い立たせて行動を開始し、有りつ丈の勇気を出して…、
- ④ 懃(うったえ)へ 訴える
- ⑤ 奔走周旋寧処スルニ違(こう)アラズ。
関係方面に頼み回わって、落ち着いて居る暇(いとま)がない。
- ⑥ 躬(きゆう)行実践一ニ自発ノ力ニ頼ル
自分自身で実際に行ない、自然にそうなることを表す。
- ⑦ 感孚(かんぷ) 誠心の心を以って感じあうこと
- ⑧ 後任者ヲ推薦 (横浜国立大学初代学長になられた富山 保 先生)
- ⑨ 寔(まことに)ニ まことに、本当に
- ⑩ 比口故旧門人 此の頃古くからの門人
- ⑪ 知ル所ヲ鏘(しょう)シテ以ッテ
鏘 ・金属や玉が打ち合って鳴り響く音。また、高く美しい音色を発する。
・多くの人の中で、特にすぐれ、名が知られているさま。
- ⑫ 後ノ君子ニ諭(つ)グ 後継の君子に告げる。
- ⑬ 全面ヲ馨(けい)スニ足ラザルナリ。 馨 : かおり、かおる;よい評判(影響)

以上